



JR静岡駅南口での「平和の波」行動

参加、セノバ前では大牧正孝
県原水協事務局長、JR静岡

市内2か所で8・6「平和の波」行動

原爆が落とされてから75年。コロナ禍の中で、原水爆禁止世界大会はオンライン開催となりました。そんな中、原水爆禁止世界大会実行委員会は、8月6日（9日）に「平和の波」の創意的な行動を起こそうと日本国内および世界各国に呼びかけました。

静岡市でも、この呼びかけに呼応して、8月6日8時～8時30分まで、市内2か所でスタンディング行動を行いました。それぞれ、横断幕やプラカードを持って

駅南口では渡辺正寿県平和委員会事務局長を中心に道行く人々に原水爆禁止と平和、そして核兵器禁止条約の成立を呼びかけました。

核禁条約署名82か国 批准43か国に前進！

核兵器禁止条約は、スーダンが署名し署名国は82か国となり、批准国はフィジー、ボツワナ、ナイジェリア、アイルランド、ニウエと5か国が増え、43か国となりました（8月6日現在）。発効に必要な50か国への到達まで残り7か国となりました。

若者が応えるヒバクシャ署名

ヒバクシャ署名は、核兵器禁止条約の発効に大きな力となります。静岡県平和委員会は、23000筆以上の「ヒバクシャ署名」を集めました。会員一人当たり34筆になります。県原水協では7月31日現在で1688127筆をカウントしています。

毎月7日には静岡県被爆者の会の呼び掛けで、東急



積極的に応える若者
(8月7日東急前ヒバクシャ署名行動)

しずおか平和の風

No.64
2020年8月25日
発行
静岡市
平和委員会
静岡市葵区鷹匠
1-5-8

TEL 253-1854
FAX 252-0785

メール
Peace-City
@mail.707.ty



ホームページ
<https://shizuoka-shi-heiwa-iinkai.jimdofree.com>

ビル前で署名行動が行われています。8月7日は7団体10名の参加で夏空の下、12時から行われました。高校生など若者の反応が良く1時

の最終締め切りは9月18日です。東京へ送る関係で、9月15日までは平和委員会事務局に届くように、最後の奮闘をお願いします。(事務局)



八月九日、長崎に原爆が投下され75年。が世界中で蔓延している今、「終末時計」は残り100秒。「自国だけの平和はあり得ない、世界はつながっているのだから」と難民対策に奮闘した緒方貞子さんの言葉であります。

「青い空は」「原爆許すまじ」等歌いました。暑い中、私達は木陰を見つけた歌う事が出来ました。こんな暑い中、原爆が投下されたのかと思うと「水、水をくれ」と言っ

て亡くなった人々の叫びが聞こえてくるようでした。私は昭和20年生まれのなので、命を与えられた年月とあれから75年がいつも重なり、一日も早く、無念に亡くなった人々、今まだ苦しんでいる被爆者の人達に心よせ、核兵器廃絶を現実のものにしなければと思いません。広島、長崎での記念集会、両市長からも日本政府に核兵器禁止条約への署名、批准が求められています。コロナ

被爆75年目の夏に思う事 ~黒田 久予~

対話による「信頼」の構築を目指す。対話による「信頼」の構築を目指す。対話による「信頼」の構築を目指す。対話による「信頼」の構築を目指す。

私達が青葉公園で歌っていたら、今97歳になるという通りがかった人が、「長崎の鐘」を一緒に歌ってくれ、戦争体験者だという話もしてくれました。何か元気をもらった気がしました。

つむじ風 コロナを利用した改憲

コロナ感染が東京、大阪、沖縄と拡大しています。アベノマスクやGo Toキャンペーンなど安倍首相のコロナ対策、世論調査で国民は厳しい見方をしています。6月に国会を閉じてから、本格的な国会審議や正式な記者会見が行われず、状況の変化に対応した方針を国民の前に示すわけでも、国会で必要な法改正をするわけでもありません。

2月の感染拡大から、「安倍首相はコロナを改憲に利用しているのでは？」という指摘が繰り返されてきました。今年の5月3日の改憲団体の集会に、改めて改憲の意欲を示すビデオメッセージを送りました。安倍首相は現行憲法ではコロナ対策はできないと繰り返し述べ、緊急時に政府にさらに多くの権限が与えられるという内容が憲法の条文に盛り込まれる必要があると表明しました。まさにコロナに便乗する緊急事態条項です。

コロナが一時おさまったのは、自粛でも国民が真面目に対応したから。ヨーロッパのロックダウンより効果がありました。緊急事態条項は国会の機能も内閣に任せる、内閣の政令が法律の権能を持つということ。今、何もできない政府、見当違いの政府に強権を任せてもしょうがないじゃないですか？コロナを改憲に利用するのではなく、真面目にコロナ対策をしてほしい。でなかったら、安倍さん辞めてください。早く臨時国会を開いて実質的な議論をすべきです。林 克

敵基地攻撃能力の保有は暴論！

ミサイル防衛のイージスアショア計画中止の代案のような形で「敵基地攻撃論」が浮上してきました。極超音速兵器や無人機の大群飛行などあらたなミサイル攻撃の脅威が増してきているので、相手領域内でも弾道ミサイル等を阻止する能力を保有しようというのです。

雑な議論・論理の飛躍

しかしこれは、いかにも乱暴な議論です。防衛がだめなら攻撃というのでは論理が飛躍しすぎています。

何よりも憲法9条違反、先制攻撃を禁じる国際法違反は明確です。我が国の防衛の基本である専守防衛からも逸脱します。

敵基地攻撃というのは、簡単にできることではありません。敵ミサイルの所在地を完璧に把握しなければならぬことです。

日本や自衛隊には、そのような



F35戦闘機から発射できるJSMミサイル

「論理の飛躍がある。自衛隊を攻撃型に変え、それをもって抑止力とするのは、憲法では認められず、専守防衛から大きく逸脱する」(岩屋毅前防衛相)

探知システム、能力はありませ

ん。それを可能にするには、人工衛星や無人偵察機、スパイ組織など、自衛隊の態勢や国家体制まで根本的な転換が必要です。

たとえ、それが実現できたとしても、互いにミサイルを撃ち合うことは避けられず、相手国のミサイルの中には、核兵器が含まれている可能性大です。

攻撃兵器も必要になります。中距離または長距離の巡航ミサイルや弾道ミサイル、そしてそれらを運搬するF35戦闘機、攻撃型空母、ミサイル発射潜水艦などの大増強、大軍拡は避けられません。すでに2018年末の防衛大綱には、それらが含まれています。今後5年間で27兆4600億円もの大軍拡です。

ですが、さらなる大軍拡となるのは避けられません。

「専守防衛とは、攻めて来るものはたたたくが、こちらが攻め込まないことで、相手に攻撃の口実を与えないことだ。敵基地攻撃能力はそれを超える。米朝米中の戦争をどう防ぐか、緊張を下げるために日本に何ができるか考えなければいけない。それをせずに敵基地攻撃能力を求めるのは、政治の本来の役割を

元自衛隊・防衛庁関係者の中からも批判や慎重論が

「これらも憲法との整合性とか、仮に相手の領域内で抑止力を効かせる場合に、じゃあどんなものが必要で、どれぐらいの期間、お金がかかって、それは日米同盟の中でどのよう位置づけられて、という気の遠くなるような作業が必要だと思っ

ている」

忘れた議論でしかない」(柳沢協二元官房副長官補)

「そういう議論を詰めていきなり敵基地攻撃能力というのは、論理的にはかなり飛んでいる」(石破茂元防衛相)

「大量のミサイルを同時に撃つ場合、それが日本に向かってくるか判別するのは難しい。敵基地攻撃能力より既存のミサイル防衛のあり方の議論を優先させるべきだ」(香田洋二元自衛艦隊司令長官)

「これも憲法との整合性とか、仮に相手の領域内で抑止力を効かせる場合に、じゃあどんなものが必要で、どれぐらいの期間、お金がかかって、それは日米同盟の中でどのよう位置づけられて、という気の遠くなるような作業が必要だと思っ

ている」

「アメリカ白人が少数派になる日—「2045年問題」と新たな人種戦争— 矢部 武 (著) かもがわ出版

平和の本の紹介

アメリカ白人が少数派になる日

—「2045年問題」と新たな人種戦争—

矢部 武 (著) かもがわ出版

トランプ大統領の言うがままにF35戦闘機などの爆買いに走る安倍首相。「アメリカ言いなりだ。いったいどこの国の首相なんだ」と私たちは批判する。しかし、私はアメリカという国—「差別と憎悪と対立を煽るトランプという人物を大統領に選び取った国・アメリカ」についてどれだけ知っているのだろうか考えることがしばしばある。ほとんど知らないのだ。

『アメリカ白人が少数派になる日—「2045年問題」と新たな人種戦争』は、書名から分かるように2045年、白人と非白人の人口比率が逆転し白人が少数派になるという予測が出たことに触発され書かれた本だ。アメリカは1600年代から新天地を求めてやってきた入植者が東部や南部に13の植民地をつくったのが国の始まりとされる。初期の入植者の多くは「アングロサクソン系白人キリスト教徒(プロテスタント)」だったという。そのことが「アメリカは白人がつくった国だ」という根強い意識を白人の側に形成した。その白人が多数派を失うことが現実味を帯びてきた—その不安と恐怖の増大が白人保守層に広がり、トランプ大統領の誕生にもつながったという。現代アメリカ社会の現状を知る上で大変興味深い一冊として読んだ。 榎本 仁

平和の動き 8~9月



- 8月29日 9の日行動 12:00~青葉前
- 9月7日 ヒバクシャ署名 12:00~東急前
- 9月9日 9の日行動 12:00~青葉前
- 9月19日 オールしずおかアクション 16:30~青葉前
- 9月29日 9の日行動 12:00~青葉前

私の好きな音楽

(6) ~ 宮 秀雄 ~



「メサイア」。これらは教会でではなく劇場で上演され一般民衆の人気を得た。バッハは教会に来る信徒のために作曲したが、彼は民衆にとって分かりやすく親しみやすい音楽を作った。1791年にロンドンを訪れたハイドンはヘンデルが変わることなく尊敬されているのを知って驚く。ビートルズが1960年代に現れるまで彼の

「そうい議論を詰めていきなり敵基地攻撃能力というのは、論理的にはかなり飛んでいる」(石破茂元防衛相)

「大量のミサイルを同時に撃つ場合、それが日本に向かってくるか判別するのは難しい。敵基地攻撃能力より既存のミサイル防衛のあり方の議論を優先させるべきだ」(香田洋二元自衛艦隊司令長官)

「これも憲法との整合性とか、仮に相手の領域内で抑止力を効かせる場合に、じゃあどんなものが必要で、どれぐらいの期間、お金がかかって、それは日米同盟の中でどのよう位置づけられて、という気の遠くなるような作業が必要だと思っ

ている」

